

KOMAZAWA X MAEJI

駒澤大学0 - 3 明治大学



ドリブルで突破を試みるも明大
ディフェンスの前に屈した原。
この日駒大の得点チャンスはゼ
ロに等しかった

(撮影・野澤俊介)

明大攻撃陣の前に沈黙… 準決勝で力尽きる

関東2部の明大に 屈辱の敗戦

逆転勝利で総理大臣杯出場権を獲得した喜びもつかの間、駒大は見逃ごすことの出来ない敗戦を喫した。それは0 - 3というスコアが表す以上の大敗だった。

試合は開始2分、日高のシュートを皮切りに終始明大ペースで進んでいった。立ち上がりから両サイドを使って攻め入る明大に対し駒大の戦い振りは地に足がついていない印象。失点シーンは早くも訪れた。藤浦、松ヶ枝とわったボールを最後は再び藤浦に右足で押し込まれ先制を許す。

先制弾で勢いに乗った明大は右サイドの日高を中心に怒涛の攻撃を仕掛ける。駒大はそれを制するのがやっと。1点ビハインドで前半を折り返す。

後半を迎えた状況は逆転に成功した前試合と同じ。50分、左サイド新川からのセントリングを小林竜が持ち直しシュートを放つ。惜しくもシュートはGKの正面に飛んでしまつが、幸先のよいスタートに駒大の反撃が見られることを期待した。だがこのシュートシーンは唯一明大ゴールを脅かすシーンでもあった。後半に入っても明大の素早いサイドチェンジや容赦ないカウンター攻撃に、駒大は翻弄され続ける。59分、左サイドを崩され追加点を許すと、駒大は交代枠を使い切るという苦肉の策で手を打つが効果は得られず。87分には小川にだめ押しの3点目を決められ万事休す。結局、この試合最後まで駒大のエンジンは一向にかかるとはなかった。

関東2部所属、言ってしまうと格下相手のチームに屈辱の敗戦。

試合後、選手たちは足早に練習へと向かった。「ほんとに頑張らなきゃいけない」(中後)。今まさに駒大の正念場が訪れている。